

羅 針 盤			自己評価 上段：7月 下段：12月					学校 関係者 評価	学校関係者評価委員の意見	今後に向けての学校の考え
評価対象	評価項目	具体的数値項目	保護者	児童	職員	総合	評価			
I 保護者との連携	1 学校の様子の理解	(1) 学校の様子が分かる。(80%以上)	97	93	95	A	A		・ 方策の継続	
			97	100	99	A				
	2 児童・保護者への対応	(2) 教師や学校に連絡や相談がしやすい(90%以上)	95	78 ★	90	88	B	A	・ 小さなことでも先生方が真摯に向き合って子どもたちに接してくださっているようなのでとてもありがたい。	・ 教師から児童への積極的な声かけを継続して実践していく。
			93	88	100	94	A			
II 確かな学力	1 分かる授業基礎・基本の定着	(3) 分かる授業を行い、教科等の基礎・基本が児童の身に付いている。(90%以上)	89	96	92	92	A	A		・ 次年度の校内研修における授業改善で推進していく。
			88	94	100	94	A			
	2 英語・外国語活動	(4) 外国語活動の成果を感じる。(80%以上)	90	90	91	90	A	A	・ 小さいうちから外国語に親しむことはよいことだと思う。	・ 職員間で情報を共有し、系統的な指導を行う。
		92	91	80	88	A				
	3 学習習慣	(5) 家庭で学習をする習慣が児童の身に付いている。(80%以上)	80	86	83	83	A	A	・ ただ宿題を出すのではなく、どうすれば親子で机を囲むことができるのか、議論やアイデアがあってもいいのでは。	・ 次年度に向けて、チャレンジカードの改善や朝学習等の見直しを行い、学習習慣の意識向上を図る。
			77	83	90	83	A			
III 豊かな心	1 あいさつ・言葉遣い	(6) 進んであいさつする習慣が児童の身に付いている。(90%以上)	80	89	100	90	A	B	・ 保護者の意識がやや低い感じがするが、全体的に身につけていると考える。 ・ 朝、あいさつ運動に立っていた時は、あいさつの言葉は出ても笑顔がほとんど見られず残念。	・ 集会時に教師から児童のあいさつの状況（よさや欠点）について話したり、あいさつの声の出し方の練習をしたりして、意欲や意識の改善を図る。 ・ あいさつ運動の活動場所を校門2箇所から昇降口3箇所にするなど、実施方法の改善を検討する。
				77	84	100	87			
		(7) 時や場・相手に応じた適切な言葉遣いが児童の身に付いている。(90%以上)	80	94	100	91	A	A	・ 教職員の言葉遣いが児童の見本になり、校内の言葉遣いの環境をつくることを共通理解し、職員の児童に対する言葉遣いを改善する。	
			77	95	100	91	A			
	2 いじめのない温かな人間関係・思いやり	(8) 楽しく学校へ通っている。(90%以上)	94	94	100	96	A	A	・ 保護者の評価が高く、好ましい状況と思われる。	・ 方策の継続
				93	93	100	95			
(9) いじめのない学校づくりに取り組んでいる。(90%以上)		91	89	100	93	A	A	・ 最も重要事項であり、引き続き努力を願いたい。	・ 道徳の時間やいじめ防止集会を通して、「いじめ」について考えさせる活動を継続し、いじめ防止のための実践につなげる。	
		93	92	100	95	A				
	(10) 相手の立場に立ってものごとを考える態度が児童に身に付いている。(90%以上)	91	96	100	96	A	A		・ 方策の継続	
		93	91	100	95	A				
	3 学校や家庭のルール	(11) 学校のきまりや約束を守って生活する態度が児童の身に付いている。(90%以上)	94	96	100	97	A	A		・ 方策の継続
			97	95	100	97	A			

IV健康・体力	1 基本的な生活習慣	(12) 毎日朝食を摂って登校する習慣が児童の身に付いている。(95%以上)	99	95	93	96	A	A		・方策の継続
			99	98	90	96	A			
		(13) 十分に睡眠をとって生活する習慣が児童の身に付いている。(90%以上)	79★	82★	93	85	B	B	・さまざまな誘惑にかられる時期でもあるが、家庭、学校の約束を守るような子になってほしい。 ・評価が低いのは、ゲームの影響があるのかなと思う。親も学校でも、何度も繰り返し子どもたちに伝えていくしかないのかなと思う。	・学校保健委員会を通して、参加した保護者に啓発していく。 ・次年度に向けて、元気アップカードを改良し、児童・保護者の意識や実践力を高めていく。
		81★	83★	82	82	B				
	2 体力づくり	(14) 健康で体力のある体をつくらうとする態度が児童の身に付いている。(90%以上)	89★	88★	100	92	A	A		・方策の継続
			90	92	91	91	A			
V安全確保施設設備	1 学校の安全対策	(15) 自分の安全は自分で守ろうとする態度が児童の身に付いている。(90%以上)	83★	96	100	93	A	A	・緊急時の対応に万全を期してほしい。	・方策の継続
			89★	97	100	95	A			
VI 進路・生き方	1 夢や希望	(16) 児童が自らの将来の夢や希望について考える機会をつくっている。(90%以上)	80★	91	93	88	B	B	・夢や希望について、様々に揺れる時期でもあり一つに特定せず、それを考える力を養ってもらいたい。	・次年度に向けて、学級活動の年間指導計画に学年に応じた職業調べなどの時間を設定する。
			82★	92	91	88	B			
		(17) 親子で児童の将来の夢や希望について話し合う機会をつくっている。(70%以上)	71	70	83	75	A	B	・夢や希望を話し合うというのは、そう持続しない。むしろ今日の出来事を聞いてあげる継続的な対話が重要だと思う。	・方策の継続
			78	74	80	77	A			
VII 組織運営	1 教職員マネジメント	(18) 学校の教育目標の達成に向け、管理職・教職員が一体となって努力している。(90%以上)			100		A			・方策の継続
					100		A			
		(19) 日常的に教職員の服務規律確保に努めている。(90%以上)			100		A			・方策の継続
				100		A				
		2 教育計画	(20) 学年等での話し合いを通して年間指導計画を確認や修正をして取り組んでいる。(90%以上)			93		A		・来年度からの新学習指導要領完全実施に向けて、今年度中に年間指導計画等を作成していく。
				100		A				
	3 研修	(21) 校内研修は教師の資質向上と授業改善に結びついている。(90%以上)			93		A		・次年度の校内研修（算数）を計画的にすすめていく。	
				91		A				
	4 学校支援センター	(22) 教育活動の必要な場面で、地域の教育力を効果的に活用している。(80%以上)			93		A		・今年度の反省を活かしながら、次年度も生活科や総合的な学習の時間、福祉教育などの体験学習に、地域の教育力を活かせるようにしていく。	
				91		A				